

令和4年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】 令和3年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・・・・・ P 3
- 【資料2】 伊勢志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移・・・・ P 6
- 【資料3】 伊勢志摩地域の県立高等学校の進路希望状況（12月）の推移・・・・・・・・ P 7
- 【資料4】 市町別の中学校卒業生進学先の推移・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- 【資料5】 令和4年度の協議について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
- 【資料6】 令和2～3年度協議会での意見・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
- 【資料7】 伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増）・・・・・・・・ P 16
- 【資料8】 伊勢志摩地域の中学校卒業生数（予測）と県立高等学校募集定員・・・・ P 17
- 【資料9】 伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて・・・・・・・・ P 18
- 【資料10】 伊勢志摩地域県立高等学校 学級数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・ P 19
- 【資料12】 伊勢志摩地域の県立高校生進路状況（H30～R2）・・・・・・・・ P 22
- 【資料13】 県立高等学校生徒を対象としたアンケート結果（抜粋）・・・・・・・・ P 23
- 【参考資料】 小規模校活性化取組の総括的な検証（R3年度）・「協議のまとめ」・・・・ P 31

令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	所属及び名前	本年度 出席委員	新・継
1	学識経験者 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 坂本 竜彦	○	継続
2	地域有識者 亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○	継続
3	鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○	継続
4	志摩市商工会 事務局長 竹内 厚史	○	新
5	度会町商工会 事務局長 富内 伊佐雄	○	継続
6	市町教育委員会 教育長 岡 俊晴	○	新
7	鳥羽市教育委員会 教育長 小竹 篤	○	継続
8	志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○	継続
9	度会町教育委員会 教育長 中村 武弘	○	新
10	南伊勢町教育委員会 教育長 劔山 成実	○	新
11	県立高等学校長代表 県立南伊勢高等学校 校長 角屋 貴久	○	継続
12	小中学校長代表 伊勢市立港中学校 校長 清水 能人	○	新
13	鳥羽市立加茂中学校 校長 西井 潔	—	新
14	志摩市立東海中学校 校長 寺本 一夫	○	新
15	大紀町立大宮中学校 校長 辻井 良孝	—	新
16	小中学校PTA代表 伊勢市PTA連合会 代表 浦田 宗昭 (伊勢市立厚生中PTA)	○	新
17	鳥羽市PTA連合会 代表 水川 敬善 (鳥羽市立加茂中PTA)	○	新
18	志摩市PTA連合会 代表 大西 正和 (志摩市立東海中PTA)	○	新
19	度会郡PTA連絡協議会 代表 東谷 雅人 (玉城町立外城田小PTA)	○	新
20	高等学校PTA代表 南勢地区高等学校PTA連合会 代表 藤原 達郎 (県立水産高校PTA)	○	新
21	小中学校教職員代表 伊勢市立明倫小学校 教諭 坂口 直矢 (伊勢市 教員代表)	○	継続
22	志摩市立東海小学校 教諭 里中 洋典 (鳥羽・志摩地域 教員代表)	○	継続
23	南伊勢町立南勢中学校 教諭 加藤 隆彦 (度会・南伊勢地域 教員代表)	—	新
24	高等学校教職員代表 県立伊勢工業高等学校 教諭 三橋 哲夫 (県立高等学校 教員代表)	○	継続

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の伊勢志摩地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- (2) 伊勢志摩地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- (3) 施設・設備に関する事
- (4) その他検討を要する事

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成24年 6月28日から施行する。

この要綱は平成29年 8月 1日から施行する。

令和 3 年度第 2 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会(8/27)の概要

1 日時 令和 3 年 8 月 27 日(金) 19 時 00 分から 21 時 00 分まで

2 場所 オンライン開催

3 概要

今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少や当地域を取り巻く高校の現状や課題をふまえたうえで、これからの伊勢志摩地域の県立高校の規模と配置等の方向性について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

<伊勢志摩地域の高校のあり方について>

- 今後も少子化が更に進行していく中、中学生が学びたい、保護者が学ばせたいと思われる高校でなければ生徒は集まらない。伊勢志摩地域の高校を再編統合していくことで、子どもたちの学ぶ環境を整備していく時期に来ているのではないか。
- これまでの活性化の取組によって、小規模校の魅力化や活性化は進んだが、地元の生徒の進学率が上がらない等の現状から考えると、伊勢志摩地域の高校で再編統合を進めていく方向性は致し方ないと言える。今後は適切な時期に、県教育委員会として、この地域のグランドデザインを提示することを検討してもらいたい。その際には、地域の小規模校のあり方だけでなく、伊勢市内の専門学科高校や普通科高校の再編統合も含めた伊勢志摩地域全体の高校の将来像を、地域にある私立高校の役割も考慮に入れながら、当地域の子どもたちの学びの保障という視点に立って示してもらいたい。
- 地域の小規模校の取組は魅力的であると考えますが、入学者の状況から判断すると、子どもたちに選ばれていないのが現実である。高校には子どもたちが希望する学びの選択肢があることが大切であるため、この地域の高校を再編統合していくことはやむを得ないと考える。当地域の高校の再編統合を進めるにあたっては、水産学科の学びは県内唯一の学科であること、地域に少ない総合学科の学びを維持していくこと等は大切な視点である。
- 地域では地元の高校と連携、支援をしながら活性化に取り組んできたが、高校側も限られた教職員数では多様な学びに対応できないなど、小規模校がおかれた厳しい状況は理解できるため、今後の少子化が進行していく中では高校の再編統合を検討せざるを得ない。ただ今まで培ってきた小規模校の学びの継承については、たとえば ICT を活用した通信制課程で学びを保障していくなど、今後は協議会でも様々なアイデアを出し合い、課題を解決していかなければならない。

<今後の伊勢志摩地域の高校を考えるにあたって大切にすべき考え方について>

- 地域の高校のあり方を議論していくにあたり、子どもたちの学びが保障されることが大切である。また、基礎学力の定着や通学困難生徒への対応、少人数教育による丁寧な指導など、これまで小規模校が担ってきた役割を、「誰一人取り残さない」という視点に立って、今後の地域の高校の再編統合後も継承していく必要がある。
- 少子化の中で、地域の小規模校の再編統合は避けられないと考えるが、単純に学科を整理していくのではなく、子どもたちの学びの機会をなくさないことが大切である。小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。また、今後再編統合を考えるにあたっては、地域の子どもたちの通学状況に配慮した高校の配置が必要である。
- 伊勢志摩地域の優秀な人材が地域に残ったり、将来地域に戻ってくるためには、この地域に就職できる企業を増やすことが必要であるとともに、この地域の中で小学校から郷土愛を育てながら、高校でも地域を学ぶことによって愛着心を育成していくことが必要である。そのためには小規模校で実践している地域課題解決型学習を、大学進学をめざす高校でも学ぶプログラムをつくるべきである。
- 地域の高校のあり方を考えるにあたっては、中学生等のニーズを適切に把握することが大切である。また、伊勢志摩地域の子どもたちの学びの多様性を確保していくためには、当地域で少ない総合学科の学びを広げていくことも重要と考えられる。
- 地域の高校を再編統合するにあたっては、地域に与える経済的影響や伊勢志摩地域の第1次産業を担う生徒の育成といった視点も大切にすることが必要である。
- 伊勢志摩地域の高校の全体像を考えるにあたっては、地域の県立高校普通科のあり方も重要な要素となってくる。今後、当協議会の中で、伊勢市内の普通科高校の校長先生等の意見を聞く機会が必要ではないか。
- 現在のコロナ禍の中で、ICTは社会に普及してきており、これからの高校現場でも活用すべきものとする。たとえば将来、ICTで学校間を結ぶ体制ができれば、すべての高校に専門的な教員がいなくても生徒に多様な学びを提供することも可能となるのではないか。また、高校の再編統合を考える際には、生徒の通学の可否を交通機関の状態を考慮に入れながら、適切な場所へ高校を配置することが重要となる。

<高校の規模について>

- 高校の現場で勤める教員としては、高等学校には一定の規模がなければ、求められる教育の質を確保できないと感じている。少人数教育では、ひとりひとりに丁寧な指導ができる利点もあるが、少人数すぎる場合には生徒の社会性を育むことができなくなるなど、その弊害は大きいものとなる。

- 小規模校の取組や教育内容は素晴らしいものの、様々な生徒の学びのニーズに応え、より魅力化するためには、高校には一定の規模が必要である。

<その他>

- 鳥羽・志摩・度会地域では以前から伊勢市内の高等学校への進学志向が強いと言われるが、近年の少子化の中では、伊勢市内の高校にも欠員が生じることもある。地域を活性化していくためには、子どもたちに郷土愛を育むとともに、卒業後に地元で就職できる就職先も必要である。高校のあり方に関しては、子どもたちの学びの選択肢を保障していくことが一番重要であるため、今後は伊勢志摩地域の高校の再編統合は必要不可欠である。
- 教員数が限られる小規模校においては、教員は教科指導、校務分掌、部活動等での負担が増えている中でも、生徒のために尽力してきた。小規模校では多様な学びの保障は難しいが、一人ひとりへの丁寧な指導によって、生徒の自己肯定感を高め、学校生活の満足度は高くなる傾向にある。
- 地域の保護者の声として、多くの中学生が早期の入試や専願制度に魅力を感じて私立高校や国立の高等専門学校に流れてしまう、と聞くことがあるため、県立高校の入学者選抜の制度に関しても今後検討する必要があるのではないかと。

伊勢志摩地域の高校(全日制)の入学定員と入学者数・欠員数の推移

教育政策課

学校名	平成30年度			平成31(令和元)年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数
明野	200	189	11	160	159	1	160	150	10	160	160	0	160	160	0
宇治山田	240	241	(1)	240	240	0	240	240	0	200	200	0	200	200	0
伊勢	320	320	0	280	280	0	280	280	0	280	281	(1)	280	280	0
宇治山田商業	200	200	0	200	200	0	200	199	1	160	157	3	160	160	0
伊勢工業	160	159	1	160	159	1	160	156	4	160	160	0	160	160	0
南伊勢	度会校舎	80	43	37	80	70	10	80	36	30	80	38	80	34	44
	南勢校舎	40	21	19	40	5	35		14		7	2			
鳥羽	80	66	14	80	64	16	80	59	21	80	46	34	80	45	35
志摩	120	111	9	120	107	13	80	77	3	80	51	29	80	53	27
水産	80	80	0	80	70	10	80	57	23	80	61	19	80	57	23
県立高校合計	1,520	1,430	91	1,440	1,354	86	1,360	1,268	92	1,280	1,161	120	1,280	1,151	129
皇學館	340	400	-60	320	336	-16	320	378	-58	315	323	-8	315	353	-38
伊勢学園	230	221	9	220	243	-23	220	245	-25	220	283	-63	230	274	-44
私立高校合計	570	621	-51	540	579	-39	540	623	-83	535	606	-71	545	627	-82

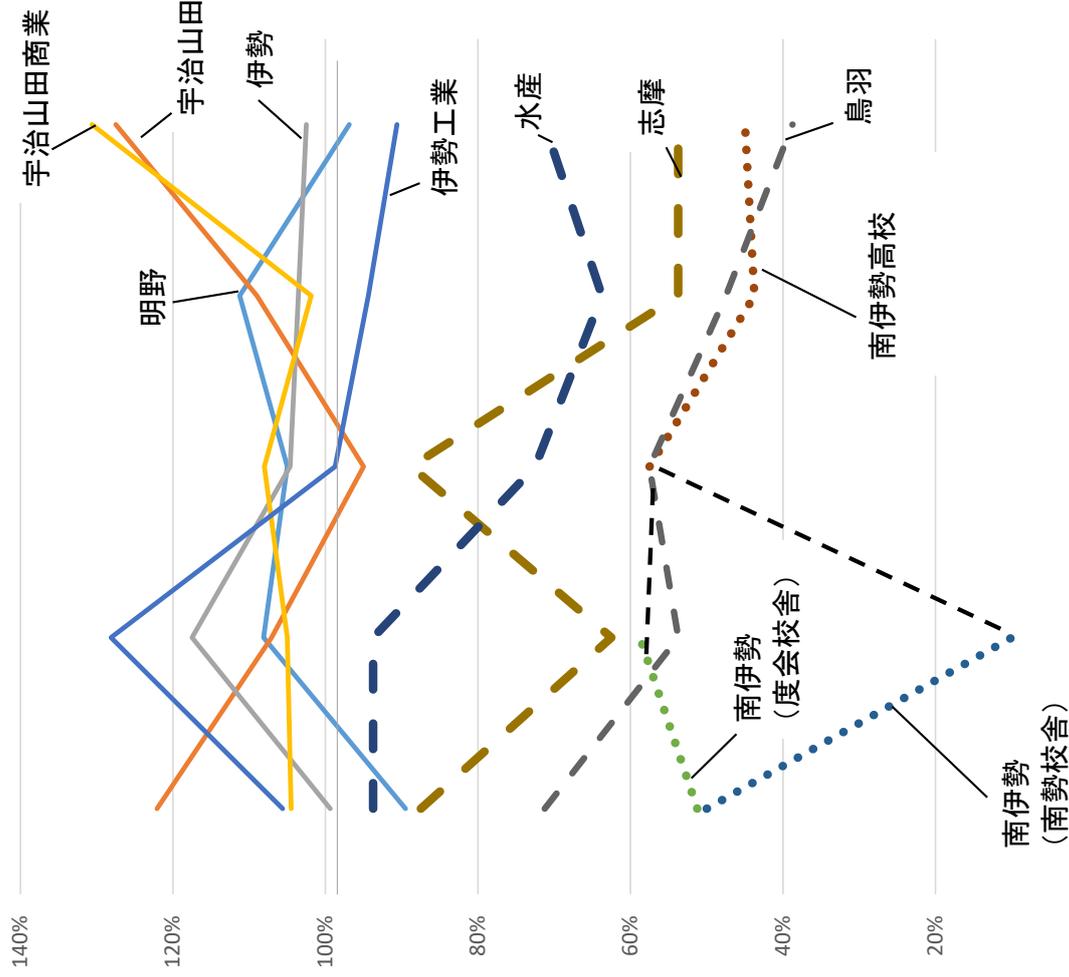
※県立高校の欠員欄に()で示した数字は、追検査で合格があったために入学者数が入学定員を上回っている人数を表しています。

※私立高校の欠員欄のマイナス(-)は、入学定員を超過した入学者数を示します。

伊勢志摩地域の県立高等学校の進路希望状況（12月）

※県内中学生の希望のみ

○充足率(希望者数/入学定員)の推移グラフ



平成29年12月 平成30年12月 令和元年12月 令和2年12月 令和3年12月

資料3

(現高3) (現高2) (現高1)

学校	平成29年12月	平成30年12月	令和元年12月	令和2年12月	令和3年12月
明野高	充足率 希望者数/定員 179 / 200	89.5% 108.1% 173 / 160	105.0% 105.0% 168 / 160	111.3% 111.3% 178 / 160	96.9% 96.9% 155 / 160
宇治山田高	充足率 希望者数/定員 293 / 240	122.1% 107.1% 257 / 240	95.0% 95.0% 228 / 240	109.0% 109.0% 218 / 200	127.5% 127.5% 255 / 200
伊勢高	充足率 希望者数/定員 318 / 320	99.4% 117.5% 329 / 280	104.6% 104.6% 293 / 280	103.6% 103.6% 290 / 280	102.5% 102.5% 287 / 280
宇治山田商高	充足率 希望者数/定員 209 / 200	104.5% 105.0% 210 / 200	108.0% 108.0% 216 / 200	101.9% 101.9% 163 / 160	130.6% 130.6% 209 / 160
伊勢工高	充足率 希望者数/定員 169 / 160	105.6% 128.1% 205 / 160	98.8% 98.8% 158 / 160	94.4% 94.4% 151 / 160	90.6% 90.6% 145 / 160
南伊勢高 (度会校舎)	充足率 希望者数/定員 41 / 80	51.3% 58.8% 47 / 80			
南伊勢高 (南勢校舎)	充足率 希望者数/定員 20 / 40	50.0% 10.0% 4 / 40			
南伊勢高	充足率 希望者数/定員		57.5% 46 / 80	43.8% 35 / 80	45.0% 36 / 80
鳥羽高	充足率 希望者数/定員 57 / 80	71.3% 53.8% 43 / 80	57.5% 57.5% 46 / 80	47.5% 47.5% 38 / 80	38.8% 38.8% 31 / 80
志摩高	充足率 希望者数/定員 105 / 120	87.5% 62.5% 75 / 120	88.8% 88.8% 71 / 80	53.8% 53.8% 43 / 80	53.8% 53.8% 43 / 80
水産高	充足率 希望者数/定員 75 / 80	93.8% 93.8% 75 / 80	72.5% 72.5% 58 / 80	63.8% 63.8% 51 / 80	71.3% 71.3% 57 / 80

市町別の中学校卒業生進学先の推移

資料 4

伊勢市の状況

%は、各市町における中学校卒業生に対する進学者の割合を表す

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢					度会	南勢					
3年度	1082	1015	78	177	89	70	70	181	133	29.0%	798	73.8%	14	33	2	2	15	0	66	6.1%	151	67
2年度	1057	1008	88	170	91	82	82	167	127	27.8%	807	76.3%	15	27	2	1	22	0	67	6.3%	134	49
元年度	1087	1014	104	179	94	80	66	181	119	27.6%	823	75.7%	18	34	2	4	17	0	75	6.9%	116	73
30年度	1170	1108	112	172	89	82	81	163	124	24.5%	823	70.3%	27	33	5	5	28	0	98	8.4%	187	62
29年度	1196	1117	116	194	95	88	92	185	109	24.6%	879	73.5%	21	23	2	4	23	0	73	6.1%	165	79

鳥羽市の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽		商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢	度会	南勢								
3年度	143	132	9	17	7	12	9	17	15	22.4%	86	60.1%	14	9.8%	9	5	3	0	0	15	11
2年度	149	142	18	16	13	10	20	18	15	22.1%	110	73.8%	14	9.4%	6	0	2	0	0	10	7
元年度	132	129	19	11	5	11	11	14	4	13.6%	75	56.8%	18	13.6%	10	1	3	0	0	22	3
30年度	140	135	21	14	11	10	14	19	7	18.6%	96	68.6%	9	6.4%	10	10	6	0	0	4	5
29年度	181	170	13	12	8	23	20	21	7	15.5%	104	57.5%	25	13.8%	8	6	7	0	0	20	11

志摩市の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩		水産		南伊勢		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢			度会	南勢							
3年度	339	328	37	32	25	27	21	47	12	17.4%	201	59.3%	3	12	46	13.6%	40	11.8%	0	0	26	11
2年度	313	291	26	45	21	22	12	33	10	13.7%	169	54.0%	0	17	47	15.0%	37	11.8%	0	0	21	22
元年度	389	372	38	51	18	29	19	52	24	19.5%	231	59.4%	3	13	72	18.5%	40	10.3%	0	0	13	17
30年度	400	384	41	39	23	37	11	36	10	11.5%	197	49.3%	4	13	90	22.5%	48	12.0%	0	0	32	16
29年度	432	418	40	49	16	34	20	45	8	12.3%	212	49.1%	0	21	98	22.7%	54	12.5%	0	1	32	14

玉城町の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢											
3年度	150	143	11	10	13	11	9	14	6	13.3%	74	49.3%	4	1	0	0	8	0	13	8.7%	56	7
2年度	145	139	10	16	12	8	13	7	11	12.4%	77	53.1%	3	3	0	0	7	0	13	9.0%	49	6
元年度	178	167	12	14	11	14	13	20	12	18.0%	96	53.9%	2	5	0	0	7	1	15	8.4%	56	11
30年度	158	150	14	12	11	9	14	11	16	17.1%	87	55.1%	3	2	0	0	18	0	23	14.6%	40	8
29年度	163	156	22	23	7	9	9	13	13	16.0%	96	58.9%	0	5	0	0	10	0	15	9.2%	45	7

度会町の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会校舎	南勢										
3年度	69	65	6	9	3	6	7	7	5	17.4%	43	62.3%	0	2	0	0	6	8.7%	0	14	4
2年度	55	49	2	9	6	5	0	4	0	7.3%	26	47.3%	0	5	0	0	8	14.5%	0	10	6
元年度	70	65	4	8	5	10	3	4	5	12.9%	39	55.7%	0	1	0	0	9	12.9%	0	16	5
30年度	86	85	6	8	8	9	6	5	5	11.6%	47	54.7%	0	2	0	0	21	24.4%	0	15	1
29年度	79	76	8	7	9	6	6	11	1	15.2%	48	60.8%	0	5	0	0	6	7.6%	0	17	3

南伊勢町の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢校舎										
3年度	54	52	4	11	6	6	8	5	5	18.5%	45	83.3%	0	0	0	1	0	2	3.7%	4	2
2年度	59	58	7	4	3	6	2	6	9	25.4%	37	62.7%	0	0	2	1	1	7	11.9%	10	1
元年度	51	51	7	3	5	8	1	6	5	21.6%	35	68.6%	0	0	1	0	0	13	25.5%	2	0
30年度	64	62	5	7	5	9	3	8	4	18.8%	41	64.1%	0	1	2	2	2	4	6.3%	10	2
29年度	79	75	7	10	5	7	1	5	3	10.1%	38	48.1%	0	1	5	2	2	20	25.3%	7	4

* 管外：伊勢志摩地域の全日制の県立（10校）と私立（2校）と高専（1校）以外の高校・高専への進学者数
 その他：特別支援・定時制・通信制・各種学校への進学及び就職等の数

令和4年度の協議について

1. はじめに

少子化の進行とともに、予測困難なほど社会情勢が大きく変化する中、子どもたちを取り巻く教育的課題はより複雑化・多様化し、さらにコロナ禍により学校のあり方や教育そのものの意義も問われています。これからの時代を生きていく高校生に育む力や、本県の県立高校で進めていく教育など、これからの三重の高校教育のあり方については、「三重県教育改革推進会議」を中心に審議を重ね、昨年度末には「県立高等学校活性化計画」（令和4年度から5年間）を策定しました。

2. これまでの協議

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会では、長年にわたり地域の現状認識を共有しつつ、特に少子化への対応等を中心に地域特有の課題の解決に向けて協議を重ねてきました。

(1) 平成23～24年度（伊勢志摩地域高等学校再編活性化拡大協議会より名称変更）

- 平成24年度の協議会において、平成27年度を目途とした小規模校の統廃合や分校化の具体策をまとめることを決定
- 当地域の中学校1・2年生等及びその保護者に対して、高校進学に対する考えや意見を調べるためのアンケート調査を実施し、「平成24年度協議のまとめ」を作成（平成25年3月：平成27年度を目途とした小規模校の統廃合や分校化の具体策）

(2) 平成25～28年度

- 「専門学科検討ワーキング会議」「鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議」を開催し、テーマを絞った協議を開始。平成33年度を見据えた平成28年度以降の当地域全体の県立高校のあり方について協議を開始
- <専門学科検討ワーキング会議> 専門学科高校3校（伊勢工業・宇治山田商業・明野）が4学級規模を維持できるうちは、単独校として存続を提案
- <鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議> 各高校が連携して活性化に取り組むべき活動として「地域防災プロジェクト」の実施を提案し、「東北交流ボランティア」を実施（H27年度）。当地域の高校生・中学生及びボランティアの大学生が宮城県・福島県を訪問し、災害ボランティア活動を行い、地域で活動報告も実施
- 「伊勢志摩地域高等学校活性化を考える会」を地域の7市町で開催（H27年度）し、地域の少子化に伴う中学校卒業生数の減少の状況等について説明・周知し、質疑応答やアンケートにより意見を交換
- 「県立高等学校活性化計画」策定にあたり、鳥羽・志摩・度会地域の小規模校のあり方について協議し、学校別活性化協議会を設置することにより、地域からの主体的な支援策を含め、学校と地域が一体となった活性化に取り組む方向性を確認

(3) 平成29～令和3年度

- 伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタを実施（平成29～令和元年度）。小中学生や保護者が各高校の特色を一度に把握できる機会を創出。令和2～3年度はコロナ禍のため、地域の県立高校をPRするチラシを地域の中学生や保護者に向けて配付
- 地域の小規模校での地域と一体となった学校活性化の取組の成果と課題を共有し、今後の伊勢志摩地域の高等学校のあり方など意見を交換
- 「県立高等学校活性化計画」策定を見据え、教育改革推進会議での審議状況、県立高等学校みらいのあり方検討委員会での検討状況、地域の小規模校活性化の総括的な検証等を共有しながら、今後の伊勢志摩地域の高等学校のあり方について意見を交換

3. 地域の現状と課題

- (1) 今後の地域の中学校卒業生数の減少に伴い、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数は段階的に減少し、15年先の令和19年度には現在の32学級から凡そ18～21学級となることを見込まれています。
- (2) 地域協議会では、昨年度末に策定された県立高等学校活性化計画に基づき、子どもたちにこれからの学びを提供していくために、伊勢志摩地域における高校の学びと配置のあり方を協議していく必要があります。
- (3) 鳥羽・志摩・度会各地域の高校はすべて1学年2学級以下となり、令和4年度には欠員が40人を超える学校もあらわれるなど、欠員の多い状況が続いています。
- (4) 伊勢市内の高校も学級減が進んでおり、特に専門学科設置校は、令和3年度には3校すべてが1学年4学級規模となり、多くの小学科も1学級規模となっています。

4. 協議の進め方

伊勢志摩地域協議会では、昨年度末に策定された県立高等学校活性化計画に基づき、15年先までの中学校卒業生の減少の状況等をふまえ、当地域での高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校については統合についての協議も行います。

今後の伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数は段階的に減少していくことを見込まれており、協議会ではこれからの時代に求められる高等学校の実現に向けて具体的な対応もあわせて協議していきます。

今年度の協議では令和6年度の県立高等学校の具体的な学びと配置のあり方について協議を進めていきますが、中学生が高校を選択する時期をふまえ、今年の12月までに協議会として一定の方向性をまとめることとしたいと考えます。

5. 今年度の協議会開催スケジュール（予定）

○第1回協議会：6月8日（水）

- ・伊勢志摩地域の高等学校を取り巻く状況について（情報共有）
- ・15年先を見通した地域全体での学科の配置の考え方について
- ・その他

○第2回協議会：7月上旬

- ・15年先を見通した地域全体での学校規模の考え方について
- ・その他

○第3回協議会：8月下旬頃

- ・15年先を見通した地域全体での学科の配置や学校規模の考え方について
- ・今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置について
- ・その他

○第4回協議会：10月中～下旬頃

- ・今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置について
- ・その他

○第5回協議会：11～12月頃

- ・今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置について
- ・その他

○第6回協議会：2～3月

- ・今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置について
- ・来年度の協議について
- ・その他

※鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議、専門学科検討ワーキング会議は、引き続き休会とし、必要が生じた際に再開することとする。

令和2～3年度協議会での意見

1. これからの県立高校生にはどのような力や学びが必要か。

【県立高等学校活性化計画の記述】（計画P6等参照）

- 自分の興味や関心、いま学んでいることと将来とのつながりを意識しながら自己の生き方や進路について主体的に考え、行動していくことのできる力を育む学び
- つまずきや失敗など困難な状況に際して、周りからの支援も得ながら、しなやかに対応していくことのできる力を育む学び
- 基礎的・基本的な知識・技能等の習得を基礎としながら、教科横断的な視点から創造的・論理的に考えることのできる力を育む学び
- 自他の生命を尊重する心や思いやりの心、規範意識などを身につけ、他者とともによりよく生きようとする態度
- 自分の考えを持ち、他者の意見を受けとめ、課題解決に向け、協働してよりよい方策を見出していくことのできる力

【協議会で出された主な意見】

- 三重県の県立高校においては、新学習指導要領にある「生きる力」、及び三重県教育ビジョンにある「生き抜く力」が各校に共通する育みたい力であると言える。加えて職業高校においては「社会の一員として働ける力」や「一生学び続ける向上心」を養うことが大切である。（R2、第1回）
- 地域への愛着心を育ててもらいたい。高校生が地域について学習して愛着心をもつことで、卒業後に進学や就職で一度地元を離れても、いつか地元に戻ってきたいという思いを育てることが大切である。（R2、第1回）
- 小中学生だけでなく、高校生も学校の授業の中で社会での実体験を積むことによって学びが広がり、将来職業を主体的に選択できる意識を育むことができる。（R2、第1回）
- 地域の子どもたちに、ふるさとを大切にするという意識を育んだうえで、この自然豊かな伊勢志摩地域の産業を如何にビジネスに変えて地域を発展させていくかを考えるような、将来の伊勢志摩地域のリーダーを地域全体で育てていく意識を共有していくべきである。（R3、第1回）
- 地場産業を含め、様々な職業をもっと身近に感じることのできるキャリア教育を進める必要がある。（R3、第1回）
- この地域の中で小学校から郷土愛を育てながら、高校でも地域を学ぶことによって愛着心を育成していくことが必要である。そのためには小規模校で実践している地域課題解決型学習を、大学進学をめざす高校でも学ぶプログラムをつくるべきである。（R3、第2回）
- 小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。（R3、第2回）
- 地域に与える経済的影響や伊勢志摩地域の第1次産業を担う生徒の育成といった視点も大切にすることが必要である。（R3、第2回）

これからの伊勢志摩地域の子どもたちには、変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むとともに、地域への愛着心を養いながら地域課題に取り組む学習等を通じて、将来、地域の担い手となるような人材を育成することが大切である。

2. 今後の生徒減に伴い地域の高校について協議するにあたって、大切にすべきことや配慮すべきことについて

【県立高等学校活性化計画の記述】（計画 P19 参照）

- 15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1 学年3 学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。

【協議会で出された主な意見】

- 道路事情が改善して広い地域からの通学が可能となったため、現状では伊勢志摩地域全体が一つの通学圏内としてとらえることができる。(R2、第2回)
- 専門学科の学びは魅力も高く、地域にとっても必要不可欠なものであり、なくすことができないものである。(R2、第2回)
- 伊勢志摩地域の県立高校のあり方を考えるにあたっては、中学生やその保護者の目線を大切にしながら、子どもたちが幸せな将来を創るための力をつけることができるような各学校の魅力を中学生に伝えることが重要になってくる。(R3、第1回)
- 少子化の中でも高校には多様な生徒のニーズに応える必要があり、地域の子どもの学びを保障するためにも、1 学級40 人の枠を柔軟に運用したり、ICT をうまく活用したりするなど、今後も様々な工夫を考えるべきである。(R3、第1回)
- 地域の高校のあり方を議論していくにあたり、子どもたちの学びが保障されることが大切である。(R3、第2回)
- 今まで培ってきた小規模校の学びの継承については、たとえばICT を活用した通信制課程で学びを保障していくなど、今後は協議会でも様々なアイデアを出し合い、課題を解決していかなければならない。(R3、第2回)
- 小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。(R3、第2回)
- 高校の再編統合を考える際には、生徒の通学の可否を交通機関の状態を考慮に入れながら、適切な場所へ高校を配置することが重要となる。(R3、第2回)
- 基礎学力の定着や通学困難生徒への対応、少人数教育による丁寧な指導など、これまで小規模校が担ってきた役割を、「誰一人取り残さない」という視点に立って、今

後の地域の高校の再編統合後も継承していく必要がある。(R3、第2回)

- 小規模校では多様な学びの保障は難しいが、一人ひとりへの丁寧な指導によって、生徒の自己肯定感を高め、学校生活の満足度は高くなる傾向にある。(R3、第2回)
- 当地域の高校の再編統合を進めるにあたっては、水産学科の学びは県内唯一の学科であること、地域に少ない総合学科の学びを維持していくこと等は大切な視点である。(R3、第2回)
- 伊勢志摩地域の高校の全体像を考えるにあたっては、地域の県立高校普通科のあり方も重要な要素となってくる。(R3、第2回)

これからの地域の高校を協議するにあたって、大切にすべきことや配慮すべきことは

- ①生徒や保護者の多様なニーズに対応するための工夫
 - ②ICTを活用した学習、学び直しをはじめ一人ひとりへの丁寧な指導
 - ③生徒の通学状況を考慮に入れた高校配置
 - ④これまで培ってきた地域と連携した学びの継続
- などである。

3. 今後の生徒減に対応した県立高等学校の配置の考え方について

【協議会で出された主な意見】

(令和2年度の協議)

- 地域の高校は活性化に取り組んで魅力ある学校づくりを進めており、それぞれの高校には多様な個性や幅広い学力に対応するなど、それぞれが果たす役割や存在価値がある。(R2、第1回)
- 伊勢市内の専門学科設置校の3校は、来年度にはすべて1学年4学級規模となるが、これ以上の小規模化は教員数をはじめとする専門性や多種類の部活動の維持などに影響を及ぼし、学校全体の活力がなくなると危機感を感じている。専門学科設置校の再編・統合を視野に入れるなど、伊勢市内の高校のあり方も検討するべきと考える。(R2、第1回)
- 地域の小規模校は地域の活性化にも貢献しており、地域にはなくてはならない存在である。40人以下の学級編成やICT機器の活用などの工夫をすることによって、小規模校の維持・存続を図ってほしい。(R2、第2回)
- 鳥羽・志摩・度会地域の各小規模校はいずれも定員を満たしていない現状ではあるが、今後5年から10年の間はまだその役割は残されている。小規模校の再編統合が進めば、この地域の高校の配置が伊勢市に集中してしまうことが想定されるが、果たしてその状況があるべき姿であるか疑問が残る。(R2、第2回)
- 水産高校では地域の水産業と密着した専門的な学習や全国的なレベルでの資格取得において成果をあげたり、志摩高校でも地域医療と連携した学習を行ったりするなど、地域の中に高校がある意味は大きい。今後の生徒減の予測からは、どこかの学校が再編統合されるのは致し方ないのかもしれないが、40人にこだわらない学級定員とするなどの工夫で小規模校を維持してもらいたい。(R2、第2回)
- 今後の伊勢志摩地域の状況を考えると、高校の再編統合を検討していく時期に差し掛かっていると思われるが、それが単なる数合わせのための再編統合ではなく、も

っと大きな視点をもって地域の高校の配置や教育内容を深く考えていくべきである。
(R2、第2回)

- 活性化の取組により小規模校の魅力が向上していることは理解できるが、地元中学から地域の小規模校への進学率が低いまま伸び悩んでいることを考えると、現実的には再編統合を進めていく必要がある。(R2、第2回)
- 高校現場からの視点で考えると、教育の質の確保のためには一定の規模が必要であり、小規模化することによる高校の魅力低下は避けられない。伊勢志摩地域全体を一つの地域として考えたうえで、それぞれの県立高校の魅力を高めることが必要である。(R2、第2回)

(令和3年度の協議)

- 今後は小規模校における地域と一体となった学習活動の成果を活かしつつ、再編統合によって、伊勢志摩地域全体で地域の子どもたちの教育を考えていくことが必要である。(R3、第1回)
- 子どもたちの数が激減していく中で、この地域の高校をどのように変えていくのかについて、現実的で具体的な議論をしていくべきと考える。(R3、第1回)
- 小規模校の取組や教育内容は素晴らしいものの、様々な生徒の学びのニーズに応え、より魅力化するためには、高校には一定の規模が必要である。(R3、第2回)
- 今後も少子化が更に進行していく中、中学生が学びたい、保護者が学ばせたいと思われる高校でなければ生徒は集まらない。伊勢志摩地域の高校を再編統合していくことで、子どもたちの学ぶ環境を整備していく時期に来ているのではないかと。(R3、第2回)
- 地域の小規模校の取組は魅力的であると考えますが、入学者の状況から判断すると、子どもたちに選ばれていないのが現実である。高校には子どもたちが希望する学びの選択肢があることが大切であるため、この地域の高校を再編統合していくことはやむを得ないと考える。(R3、第2回)
- 地域では地元の高校と連携、支援をしながら活性化に取り組んできたが、高校側も限られた教職員数では多様な学びに対応できないなど、小規模校がおかれた厳しい状況は理解できるため、今後の少子化が進行していく中では高校の再編統合を検討せざるを得ない。(R3、第2回)
- これまでの活性化の取組によって、小規模校の魅力化や活性化は進んだが、地元の生徒の進学率が上がらない等の現状から考えると、伊勢志摩地域の高校で再編統合を進めていく方向性は致し方ないと言える。(R3、第2回)
- 高校のあり方に関しては、子どもたちの学びの選択肢を保障していくことが一番重要であるため、今後は伊勢志摩地域の高校の再編統合は必要不可欠である。
(R3、第2回)

今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高校の配置を続けていくことは難しい。これまでの地域の小規模校の教育内容を活かしつつ、この地域の高校の再編統合を協議していく必要がある。

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和3年5月1日 教育政策課調べ

資料7

	H 15.3	H 30.3	H 31.3	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3
	卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
伊勢市	1,510	1,196	1,170	1,087	1,057	1,083	1,126	981	1,034	1,000	1,029	988	899	969
			-26	-83	-30	26	43	-145	53	-34	29	-41	-89	70
						26	69	-76	-23	-57	-28	-69	-158	-88
度会郡	552	383	369	358	308	315	336	313	322	292	303	265	268	277
			-14	-11	-50	7	21	-23	9	-30	11	-38	3	9
						7	28	5	14	-16	-5	-43	-40	-31
鳥羽市	294	181	140	132	149	143	122	107	119	111	107	98	114	86
			-41	-8	17	-6	-21	-15	12	-8	-4	-9	16	-28
						-6	-27	-42	-30	-38	-42	-51	-35	-63
志摩市	653	432	400	389	313	338	343	336	293	320	298	247	282	280
			-32	-11	-76	25	5	-7	-43	27	-22	-51	35	-2
						25	30	23	-20	7	-15	-66	-31	-33
小計	3,009	2,192	2,079	1,966	1,827	1,879	1,927	1,737	1,768	1,723	1,737	1,598	1,563	1,612
			-113	-113	-139	52	48	-190	31	-45	14	-139	-35	49
						52	100	-90	-59	-104	-90	-229	-264	-215
県内合計	20,468	17,458	16,811	16,489	15,777	16,212	16,046	15,871	15,549	15,405	15,220	14,700	14,343	14,077
			-647	-322	-712	435	-166	-175	-322	-144	-185	-520	-357	-266
						435	269	94	-228	-372	-557	-1,077	-1,434	-1,700

	伊勢市内高校 (県立全日)		伊勢以外高校 (県立全日)		伊勢地区高校 (県立全日)		県内(県立全日)	
	学級数(募集)	欠員	学級数(募集)	欠員	学級数(募集)	欠員	学級数(募集)	欠員
皇学館	340	320	320	315	315	315	315	315
伊勢学園	400	336	378	323	353	353	353	353
	230	220	220	220	230	230	230	230
鳥羽商船	221	243	245	283	274	274	274	274
	120	120	120	120	120	120	120	120
3校の欠員数(合計)	118	122	126	128	120	120	120	120
	-49	-41	-89	-79	-82	-82	-82	-82

【令和3年度版】今年度版は第2回で配付予定

※欠員の(一)は、定員を超過した入学者を示す。

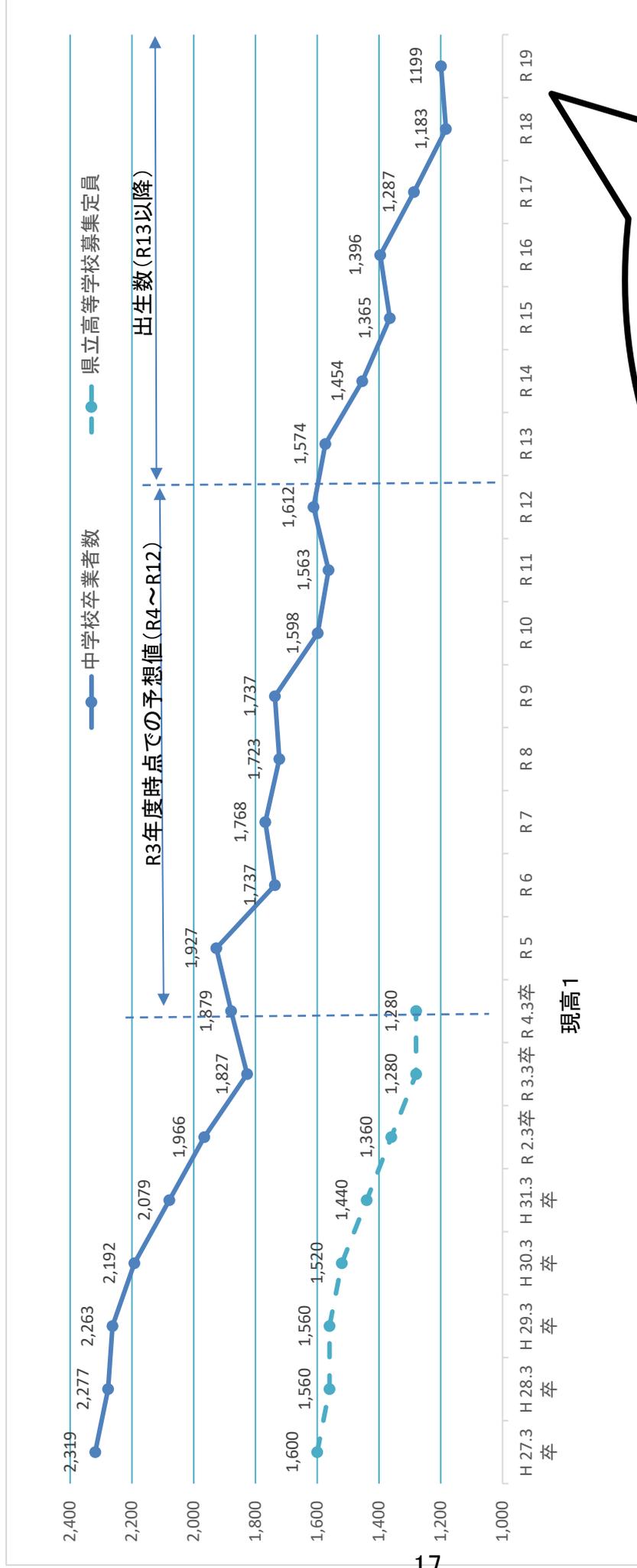
(参考)

三重	募集	540	530	530	530	540
	入学者数	568	591	624	548	584

伊勢志摩地域の中学校卒業者数(予測)と県立高等学校募集定員

【暫定版】

資料8



伊勢志摩地域の出生数

	H27年度出生 現小1	H28年度出生 5~6才	H29年度出生 4~5才	H30年度出生 3~4才	R1年度出生 2~3才	R2年度出生 1~2才	R3年度出生 0~1才
伊勢市	935	864	814	883	811	761	744
鳥羽市	108	109	94	98	83	65	88
志摩市	258	240	227	209	205	177	167
度会郡	273	241	230	206	188	180	200
合計	1,574	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199

令和19年度(15年後)
伊勢志摩地域県立高等学校
募集定員総数の見込み
18~21学級規模

伊勢志摩地域 学級数の推移

資料10-1

	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34			
宇治山田	10	10	10	10	10	10	9	10	9	9	10	10	9	9	9	9	8	8	8	8	7	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	5			
伊勢	10	10	9	10	10	10	10	9	9	10	10	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7			
伊勢工業	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4		
宇治山田商	9	9	8	8	9	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4		
明野	8	7	7	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4		
南勢	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
度会	4	4	4	4	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
南島	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鳥羽	9	9	8	8	8	8	7	7	8	8	7	7	6	6	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
志摩	7	7	6	5	5	6	6	6	6	7	6	6	5	5	5	5	5	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
水産	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
学級数合計	76	75	71	69	69	67	63	61	59	62	62	60	58	56	55	55	50	48	47	47	45	47	43	44	42	42	40	39	39	38	36	34	32	32	32	32	

※H16南伊勢高開校、H19南島校舎募集停止

※R2から南伊勢高開校校舎で2学級

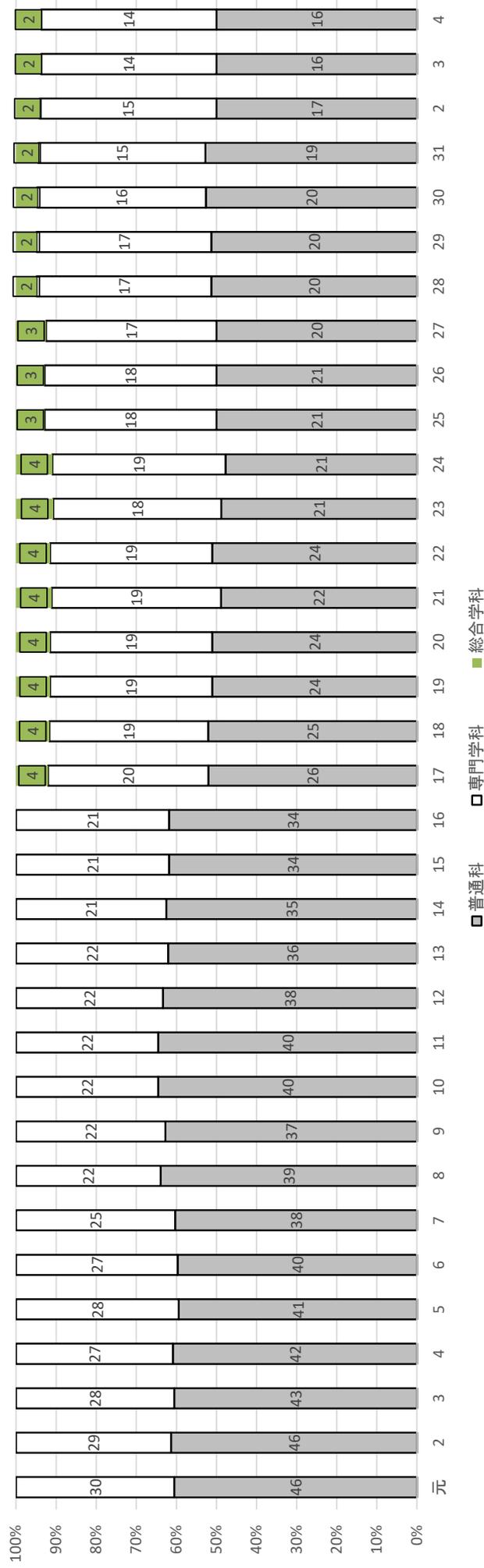
	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34				
10学級	2	2	1	2	2	2	1	1	1	1	2	1																										
9学級	2	2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	2	1	1	1																					
8学級	2	1	3	3	2	3	1		1	1	1																											
7学級	1	2	1						3	2	3	3	1	1	1	1	1																					
6学級			1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
5学級	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	
4学級	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1													
3学級	2	2	2	1	2	1			1																													
2学級				1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
1学級							1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
学校数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9		

平均学級数	6.9	6.8	6.5	6.3	6.3	6.1	5.7	5.5	5.4	5.6	5.6	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0	4.5	4.4	4.7	4.7	4.5	4.7	4.3	4.4	4.2	4.2	4.0	3.9	3.9	3.8	3.6	3.8	3.6	3.6	3.6
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

伊勢志摩地域 学級数の推移【普通科、専門学科、総合学科別】

資料10-2

学科	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
普通科	46	46	43	42	41	40	38	39	37	40	40	38	36	35	34	34	26	25	24	24	22	24	21	21	21	21	20	20	20	19	17	16	16			
農業科	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2			
工業科	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4			
商業科	9	9	8	8	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	7	7	6	6	6	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4		
水産科	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2		
家庭科	5	5	5	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
看護科																																				
情報科																																				
福祉科															1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
その他								1	1	1	1	1	1	1																						
総合学科																	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	
学級数の計	76	75	71	69	69	67	63	61	59	62	62	60	58	56	55	55	50	48	47	47	45	47	43	44	42	42	40	39	38	36	34	32	32	32		



伊勢志摩地域 学級数の推移【専門学科：小学科別】

資料10-3

1 工業科

工業科	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4		
機械関係	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
造船関係	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
電気関係	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
建築関係	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
化学工業関係	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
学級数の計	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	

2 農業科

農業科	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4		
農業関係	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
園芸関係																																				
食品科学関係													1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
農業経済関係	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																								
学級数の計	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	

3 商業科

商業科	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4		
商業関係	9	7	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
情報処理関係		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
国際経済関係		1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学級数の計	9	9	8	8	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	7	7	6	6	6	6	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4

4 家庭科

家庭科	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4		
家政関係	4	4	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育関係	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学級数の計	5	5	5	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

伊勢志摩地域の県立高校生(全日制)の進路状況(H30～R2)

資料11

	大学等進学者		専門学校	各種学校等 (予備校・職業訓練校等)	就職者	その他	計
	大学	短大等 (専攻科等含む)					
伊勢志摩地域	42.9%	4.5%	12.4%	4.6%	33.6%	2.0%	100%
県全体合計	41.4%	5.4%	14.8%	4.0%	32.3%	2.1%	100%

普通科

宇治山田	80.8%	5.9%	8.5%	1.3%	1.1%	2.4%	100%
伊勢	86.6%	1.1%	0.9%	8.4%	0.9%	2.1%	100%
南伊勢(南勢)	22.5%	0.0%	15.4%	0.0%	62.1%	0.0%	100%
南伊勢(度会)	5.8%	1.5%	14.3%	5.9%	68.7%	3.8%	100%
志摩	16.1%	5.2%	33.4%	2.0%	42.3%	0.9%	100%
伊勢志摩地域 普通科	67.8%	3.2%	9.1%	4.8%	13.0%	2.1%	100%

総合学科

鳥羽	8.1%	2.3%	19.1%	1.0%	63.3%	6.2%	100%
伊勢志摩地域 総合学科	8.1%	2.3%	19.1%	1.0%	63.3%	6.2%	100%

専門学科

工業(伊工)	7.3%	1.7%	8.9%	1.1%	80.1%	0.9%	100%
商業(山商)	44.1%	6.3%	10.6%	4.9%	33.6%	0.5%	100%
水産(水産)	2.7%	14.0%	7.8%	4.2%	70.3%	1.0%	100%
農業(明野)	7.6%	3.5%	29.5%	2.3%	54.2%	2.9%	100%
家庭(明野)	5.8%	7.8%	45.2%	4.6%	30.6%	6.0%	100%
福祉(明野)	7.5%	17.6%	19.0%	32.5%	21.6%	1.9%	100%
伊勢志摩地域 専門学科	18.1%	6.1%	15.5%	4.8%	54.0%	1.5%	100%

県立高等学校生徒を対象としたアンケート結果（抜粋）

- 調査期間：令和2年12月7日（月）～令和3年1月11日（日）
- 調査形態：「Google Forms」を用いたインターネット接続によるアンケート
- 調査対象者：全県立高等学校における令和2年度入学生
（現3年生が1年生の時のアンケート結果）
- 回答者数：3,373

うち伊勢志摩地域： 計457人

〔 宇治山田 (40) 伊勢 (40) 伊勢工 (40) 宇治山田商 (52) 伊勢まなび (16)
明野 (40) 南伊勢南勢 (14) 南伊勢度会 (33) 鳥羽 (40) 志摩 (79) 水産 (58) 〕

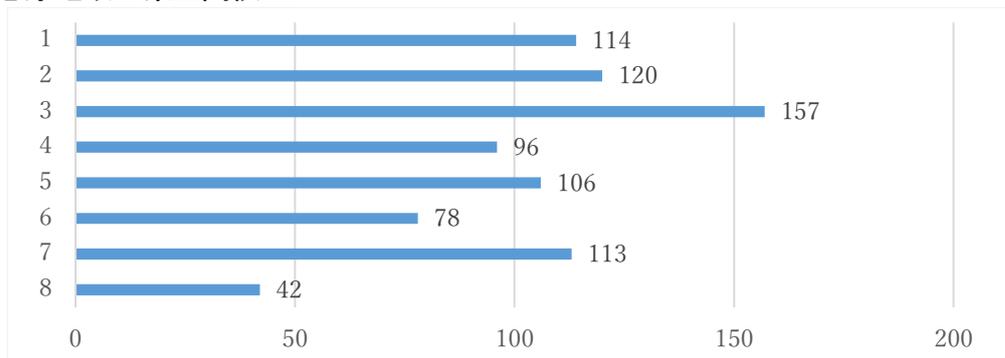
（質問項目） 今回の資料では○の結果を掲載

- 質問1 高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。
- 質問2 現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。
- 質問3 高校を選ぶとき、参考にしたことは何ですか。
- 質問4 どんなときに、現在通っている高校に入学できてよかった、と実感できますか。（自由記述）
- 質問5 現在通っている高校での生活について、満足していますか。
- 質問6 質問5で、「① 満足している」「② どちらかといえば満足している」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。
- 質問6 質問5で、「③ どちらかといえば満足していない」「④ 満足していない」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。
- 質問7-1 あなたは普段、授業の予習・復習や受験勉強、資格取得のための学習などを、授業以外（家や塾、放課後の学校等）でどれくらいしていますか。平日について、教えてください。
- 質問7-1 (2) 質問7-1で「① 全くしない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問7-2 同じく、休日について、教えてください。
- 質問7-2 (2) 質問7-2で「① 全くしない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問8 あなたは普段、学校の授業時間以外に、一日あたり平均でどれくらいの時間、読書を読みますか。最も近いものを教えてください。
- 質問8-2 質問8で「① 全くしない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問9 あなたは普段、学校の図書館をどれくらい利用しますか。最も近いものを教えてください。
- 質問9-2 質問9で「① 全く利用しない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問10 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- 質問10-2 質問10で「① 考えることがよくある」「② 考えることがときどきある」と答えた人にお尋ねします。地域の行事やボランティア活動など、地域や社会をよくすることにつながる活動をしていますか。
- 質問11 次のうち、これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。
- 質問12 質問11で選んだ項目について、あなた自身は、それらを身につけることができていると思いますか。
- 質問13 学校だけではなく普段の生活も含めて、これから学びたいと思っていることや、興味・関心を持っていることについて、一言（一文）で表現してください。
- 質問14 今後、どのような形の授業を受けたいですか。
- 質問15 現在通っている高校をよりよくするためには、どんなことをしたらよいと思いますか。（自由記述）
- 質問16 これからの社会には、どんな高校があったらいいと思いますか。（自由記述）

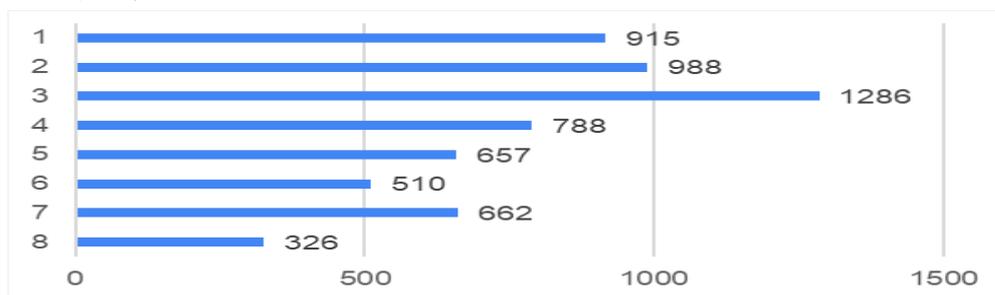
質問1 高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。(2つまで選べます)

- 1 社会に出て暮らすときに必要となる基礎的・基本的な学力を身につけることができる
- 2 大学などに進学するために必要となる学力を身につけることができる
- 3 将来必要となる資格や技能を身につけることができる
- 4 興味・関心のある分野の学習を深めることができる
- 5 文化祭・体育祭などの学校行事に活発に取り組むことができる
- 6 部活動に活発に取り組むことができる
- 7 友人や先輩、先生などたくさんの人と出会うことができる
- 8 社会人になったときに必要となる礼儀やマナーを身につけることができる

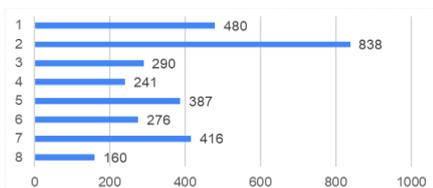
○伊勢志摩地域の県立高校生



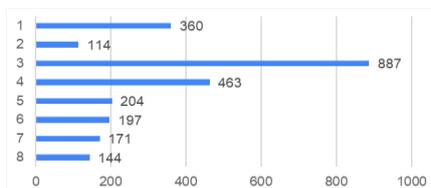
全体 回答者数：3,373



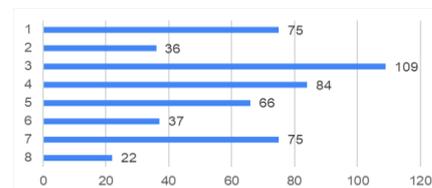
普通科、普通科系専門学科
回答者数：1,695



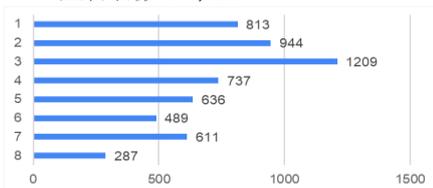
職業系専門学科
回答者数：1,395



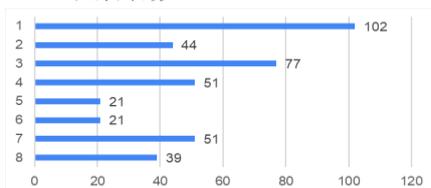
総合学科
回答者数：283



全日制
回答者数：3,146



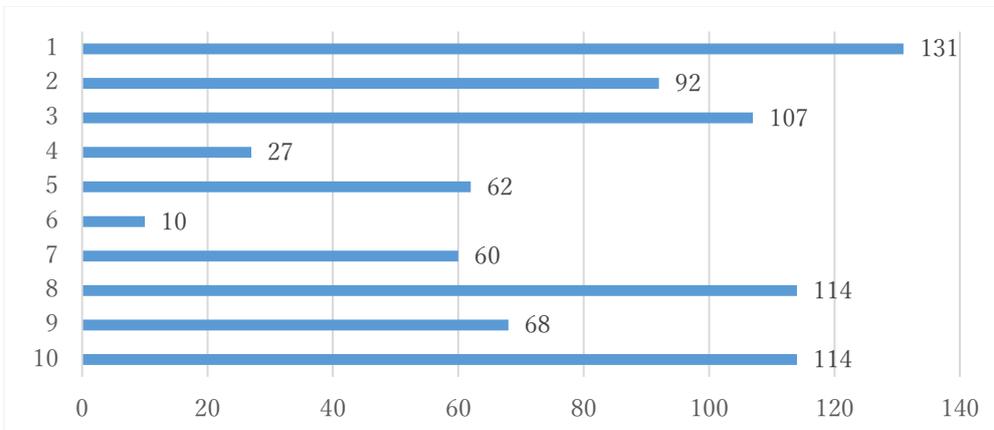
定時制・通信制
回答者数：227



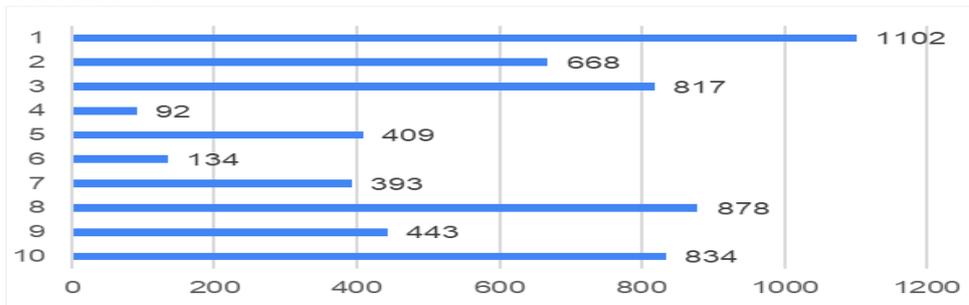
質問2 現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。(2つまで選べます)

- 1 学びたい、または興味・関心のある内容の学習ができる
- 2 卒業後に大学に進学するための学習ができる
- 3 将来就きたい仕事と関係する学習ができる
- 4 地域の人々と関わりながら地域について学ぶ学習ができる
- 5 入部したい部活動がある
- 6 施設や設備が充実している
- 7 学校のもつ雰囲気やイメージがあっていた
- 8 自分の実力にあっている高校だと思った
- 9 家族や親せき、中学校の先生などにすすめられた
- 10 自宅から近く、通いやすい

○伊勢志摩地域の県立高校生

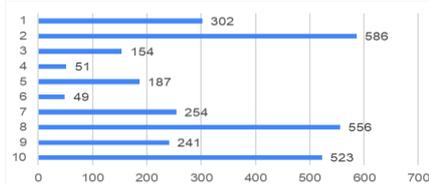


全体 回答者数：3,373



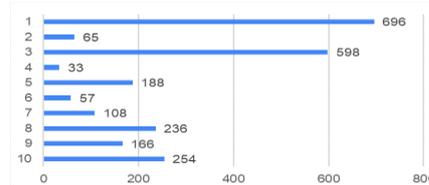
普通科、普通科系専門学科

回答者数：1,695



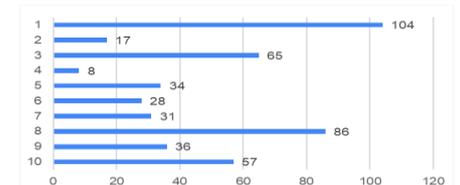
職業系専門学科

回答者数：1,395



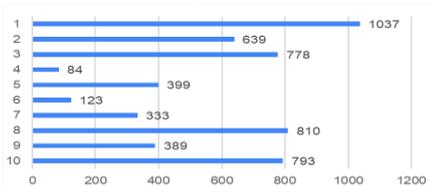
総合学科

回答者数：283



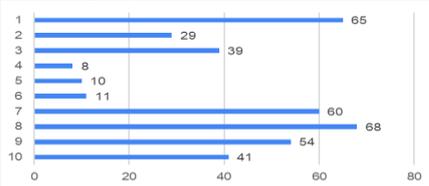
全日制

回答者数：3,146



定時制・通信制

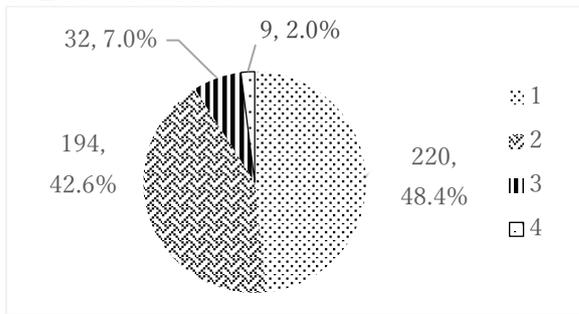
回答者数：227



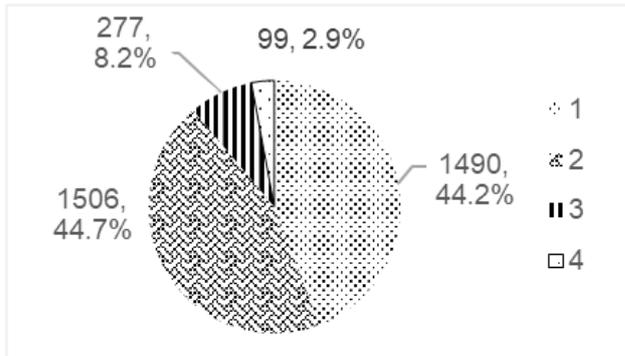
質問5 現在通っている高校での生活について、満足していますか。(選べるのは1つだけです)

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足している
- 3 どちらかといえば満足していない
- 4 満足していない

○伊勢志摩地域の県立高校生



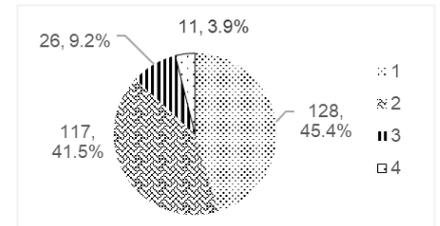
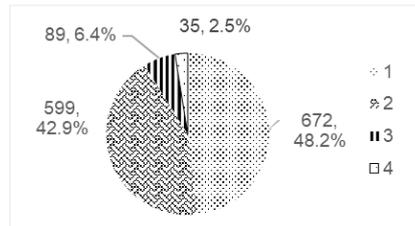
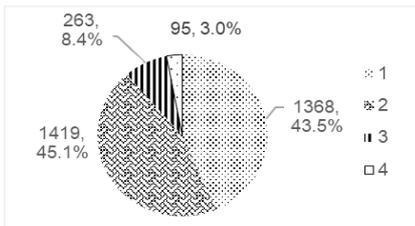
全体 回答者数：3,372



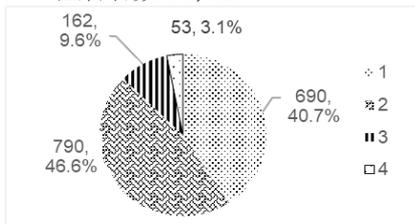
普通科、普通科系専門学科
回答者数：1,695

職業系専門学科
回答者数：1,395

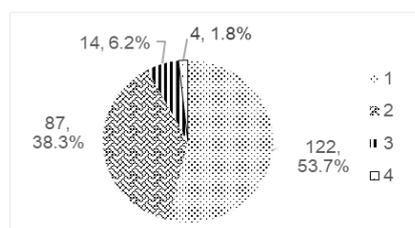
総合学科
回答者数：282



全日制
回答者数：3,145



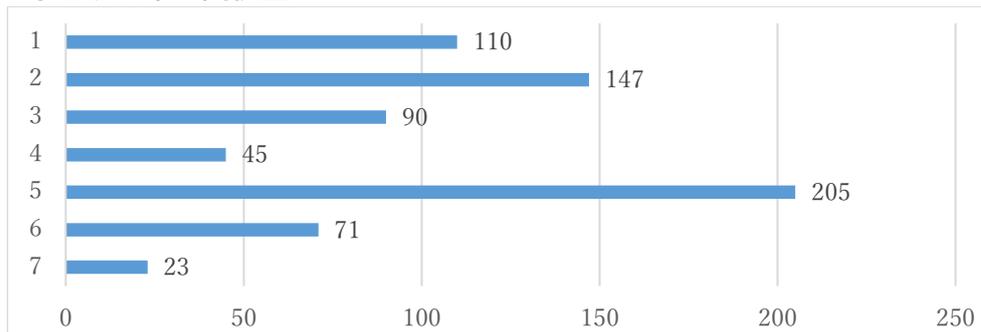
定時制・通信制
回答者数：227



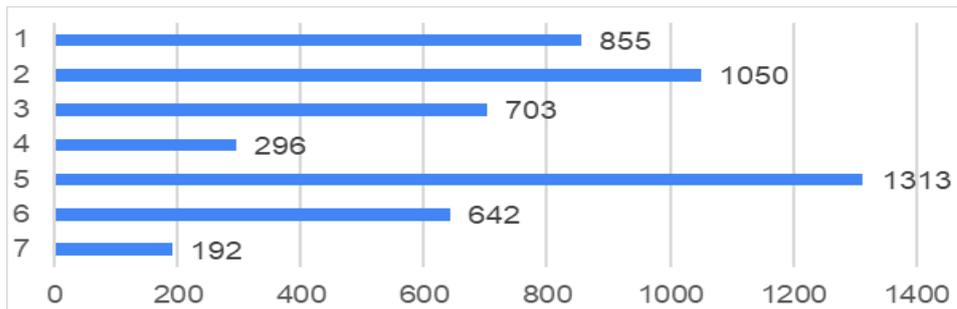
質問6 質問5で、「① 満足している」「② どちらかといえば満足している」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。(2つまで選べます)

- 1 ためになると思える授業がある
- 2 楽しいと思える授業がある
- 3 ほかの学校にはない特徴的な学習や活動がある
- 4 先生が丁寧に指導してくれたり、相談にのってくれたりする
- 5 友人や先輩などと、よい人間関係がつくれている
- 6 部活動が楽しく、充実して取り組んでいる
- 7 社会人になったときに必要となる礼儀やマナーを身につけることができる

○伊勢志摩地域の県立高校生

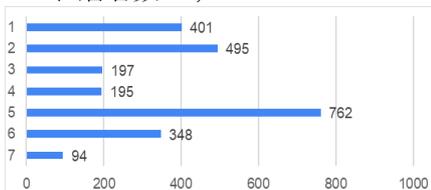


全体 回答者数：2,996



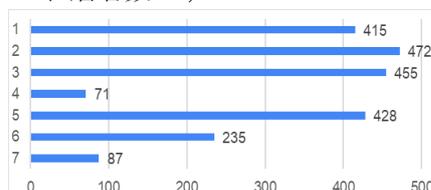
普通科、普通科系専門学科

回答者数：1,480



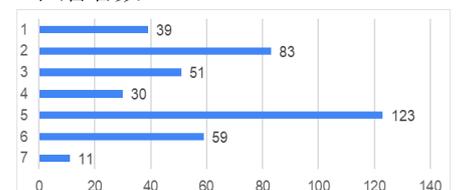
職業系専門学科

回答者数：1,271



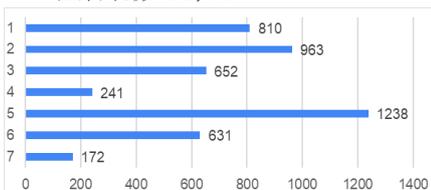
総合学科

回答者数：245



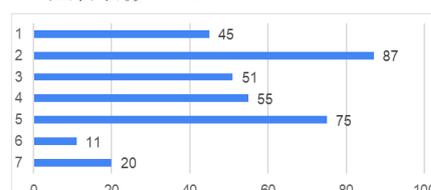
全日制

回答者数：2,787



定時制・通信制

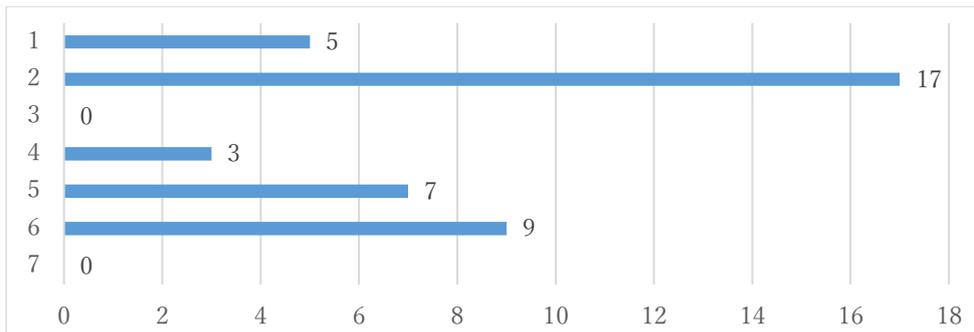
回答者数：209



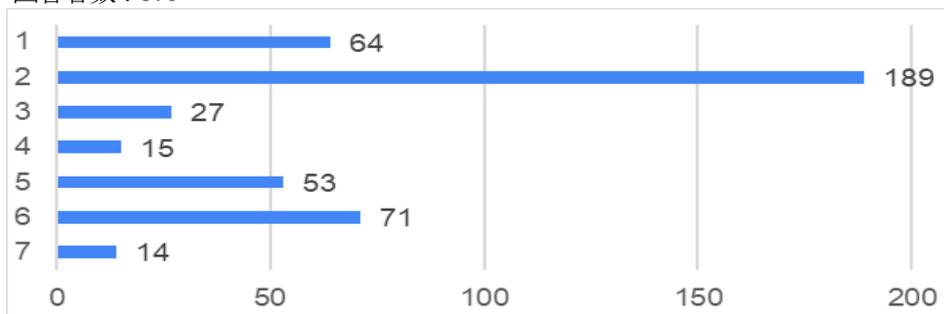
質問6 質問5で、「③ どちらかといえば満足していない」「④ 満足していない」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。(2つまで選べます)

- 1 ためになると思える授業が少ない
- 2 楽しいと思える授業が少ない
- 3 その学校ならではの特徴的な学習や活動がない
- 4 先生との関わりがあまりなく、指導をしてもらったり相談にのってもらったりする機会がない
- 5 友人や先輩など、人との出会いの機会が少ない
- 6 部活動が楽しくない
- 7 社会人になったときに必要となる礼儀やマナーを身につけることができない

○伊勢志摩地域の県立高校生

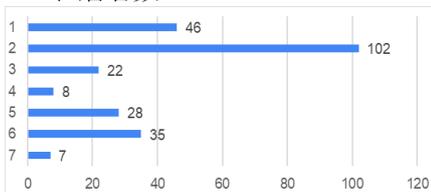


全体 回答者数：376



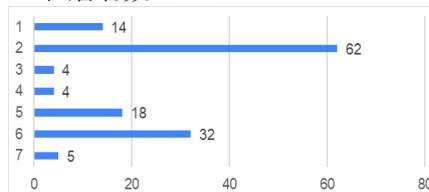
普通科、普通科系専門学科

回答者数：215



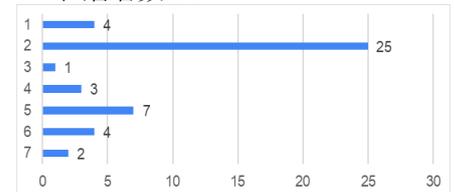
職業系専門学科

回答者数：124



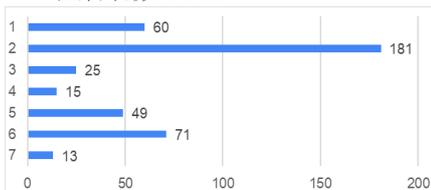
総合学科

回答者数：37



全日制

回答者数：358



定時制・通信制

回答者数：18

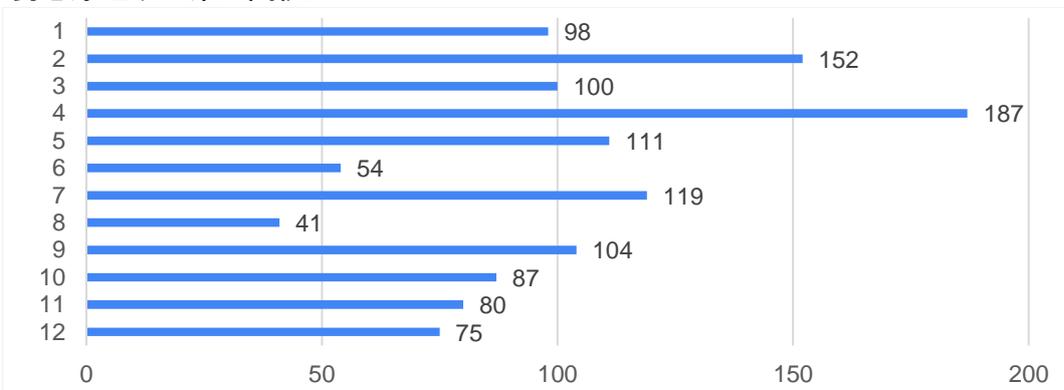


質問 11 次のうち、これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。

(3つまで選べます)

- 1 各教科の学習内容
- 2 ものごとに進んで取り組む力
- 3 違う年齢や異なる文化の人と積極的に関わる力
- 4 目標を立てて実行する力
- 5 失敗してもくじけずに取り組み続ける力
- 6 現状から課題を見つけ出す力
- 7 計画する力
- 8 新たな価値を創り出す力
- 9 わかりやすく伝える力
- 10 相手の意見を丁寧に聴く力
- 11 規則や約束を守る力
- 12 AI（人工知能）やVR（仮想現実）など先端技術を使いこなす力

○伊勢志摩地域の県立高校生

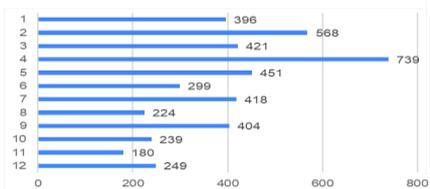


全体 回答者数：3,373



普通科、普通科系専門学科

回答者数：1,695



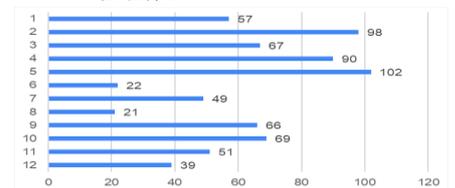
職業系専門学科

回答者数：1,395



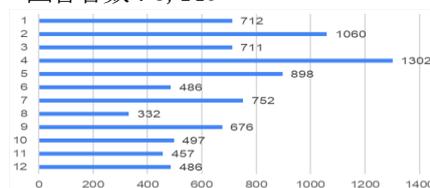
総合学科

回答者数：283



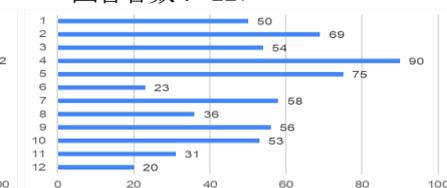
全日制

回答者数：3,146



定時制・通信制

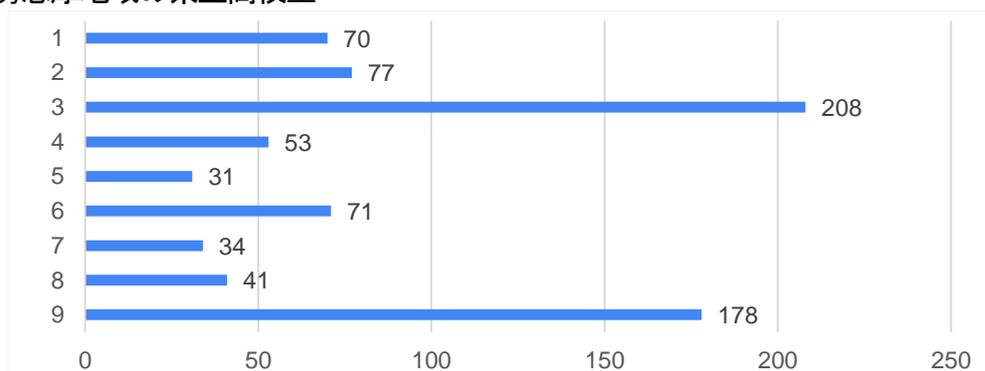
回答者数：227



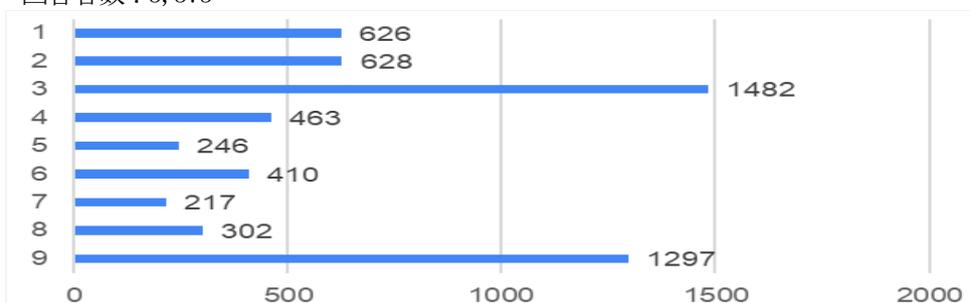
質問 14 今後、どのような形の授業を受けたいですか。(2つまで選べます)

- 1 先生が一斉に説明する授業
- 2 自分で調べることを取り入れた授業
- 3 グループでの活動を取り入れた授業
- 4 テーマに沿って自由に議論する授業
- 5 いくつかの教科で学んだことを使って、課題の解決策を考える授業
- 6 学校外のいろいろな場所で調査をしたり、様々な立場の人と会話したりする授業
- 7 考えたり調べたりしたことを、工夫して発表する授業
- 8 ほかの高校の生徒と一緒に、またはほかの高校の先生から、オンラインで受ける授業
- 9 タブレットなどを使って、理解できるまで繰り返し学習ができる授業

○伊勢志摩地域の県立高校生

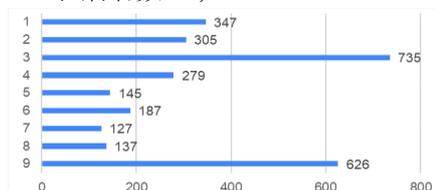


全体 回答者数 : 3,373



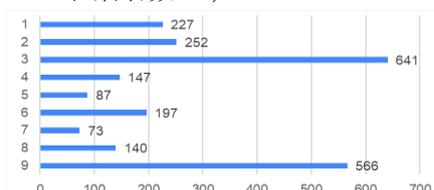
普通科、普通科系専門学科

回答者数 : 1,695



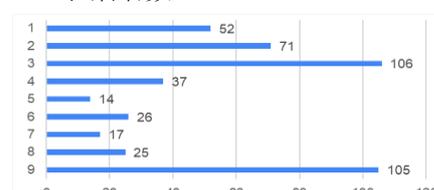
職業系専門学科

回答者数 : 1,395



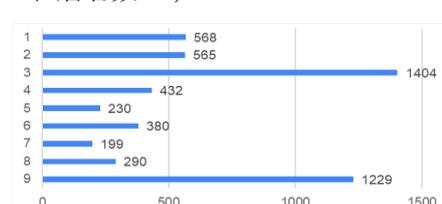
総合学科

回答者数 : 283



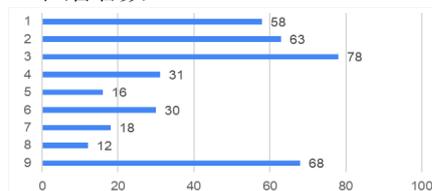
全日制

回答者数 : 3,146



定時制・通信制

回答者数 : 227



小規模校活性化取組の総括的な検証（R3年度）・「協議のまとめ」について

1 鳥羽高校・協議のまとめ

鳥羽高校は、鳥羽市唯一の高等学校として、また南勢地区唯一の総合学科高等学校として「観光ビジネス」「スポーツ健康」「総合福祉」「文理進学」の4つの系列を展開して、鳥羽市や地域の方々の支援を得ることで、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動を進めてきました。

文理進学系列の2年生では、系列選択科目「鳥羽学」において、海女文化を発信するVR制作等の地域課題解決型学習に取り組んできました。また観光ビジネス系列および総合福祉系列の3年生では、毎週、地域の事業所で、終日働くことを通して自分の生き方・在り方などを考える「デュアルシステム」にも積極的に取り組んできました。さらに、小中学校との連携・交流、地域行事へ参加し、地域社会をささえる若者が育ち合う学校をめざして教育活動を推進してきました。

希望する進路実現に向けては、一人ひとりが必要な基礎学力を身につけ、自信や自己肯定感を持てるよう、スタディサプリを利用した個別最適な学びを推進しました。

地域の少子化も急激に進行する中、入学者数を確保するために鳥羽高校の活性化の取組みをホームページ・新聞・広報などを通じて情報発信してきました。また、生徒の学校生活も落ち着いてきており、鳥羽高校へのイメージは以前より改善しつつあるものの、地域の中学生は伊勢市内への志向が強いことから、鳥羽市出身者の割合が低下し、入学者の増加にはつながらず、定員は未充足の状況が続いています。なお、入学者全体では、伊勢市出身者や、近年は明和町や松阪市から進学する生徒の割合が増えてきている状況となっています。

総合学科は多様な生徒の学びに対応し、様々な体験や実習を通して各生徒の将来の生き方・在り方を考えさせることが魅力の一つですが、鳥羽高校は現在、27人の教員で運営をしており、幅広い選択を可能とする教育課程を編成することが難しくなっています。生徒たちにおいても、互いに認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育むことを目指していますが、今後更に生徒数が減少することにより、そのような学びを進めていくことが難しい状況も考えられます。

また、部活動においては、顧問や生徒数が減り、チームとしての活動が制限される競技もでてきているのが現状です。

少子化がさらに進む中においても、地域全体で子供たちの多様な学びを実現し、将来の伊勢志摩地域を担う人材を育てていくためには、鳥羽高校だけでなく地域全体で、これからの高校における学びや望ましい学校規模と配置も含めた今後の在り方の協議・検討を進めていく必要があると考えます。

2 志摩高校 協議のまとめ

志摩高校は志摩市唯一の普通科高校として、地域と連携・協働し、探究活動「志摩学」をはじめとする地域の教育資源を活用した特色のある教育活動を展開し、生徒のキャリア育成や志摩市を担う当事者意識を醸成するとともに、地域に愛され、地域とともにある学校を目指して学校活性化に努めてきました。また、志摩高校の様々な取組について情報を発信し、地域からの認知を得るとともに、地域の中学生等への丁寧な説明を行うことで進学希望者の確保を目指してきており、例年、生徒の9割以上が志摩市内中学校出身者となっています。

地域の教育資源を活用した特色のある教育活動の展開に加え、志摩高校ではすべての生徒に対する基礎学力の定着と進路実現に向けた指導の充実、教育・医療分野の上級学校への進学希望生徒に対する指導の充実等、きめ細やかな教育活動をおこない、一定の成果をあげてきました。また、部活動においても、ここ数年の間に相撲部のインターハイ出場、美術部の国際美術展最優秀校賞受賞などの成果をあげています。

一方で、志摩市においてはもともと伊勢方面への志向が強く、鉄道・バスの利便性が高まったことや、令和2年度からは私立高等学校の授業料が実質無償化になったことから、伊勢市内の高校へ進学する生徒の割合がますます高くなっている状況であり、様々な取組が志摩高校への進学者増にはつながっていません。今後の市内中学校卒業生数の推移を考慮に入れると、志摩高校の進学者増のためには、志摩市内中学校からの進学者を増やすとともに、志摩市以外からの進学者増も必要ととらえ、市外に向けた広報活動にも取り組んでいるところですが、市外からの進学者はごく限られた人数に留まっています。

志摩高校は現在、1学年2クラス、2学年2クラス、3学年3クラスの計7クラスに223名の生徒が在籍し、これに対して常勤の教諭・臨時的任用講師は短時間勤務を含めて22名となっています。現状でも校務分掌や教育活動、部活動の顧問等において人員が不足しており、一人の教員が複数の役割を担わざるをえず、生徒の幅広いニーズにきめ細やかに対応していくことが困難になりつつあります。また、生徒数や教員数が減少したことにより、令和3年度の部活動は令和2年度から3部減少した13部となりました。令和4年度の募集は2クラスとなっており、それに伴って教職員数や学校全体の生徒数が更に減少することから、志摩高校の特色であるきめ細やかな教育活動の継続や、生徒のニーズに対応した部活動の実施は困難になることが予想されます。

将来この地域を担うことのできる人材育成に向けて、今後も、生徒一人一人の多様なニーズに応えることができるきめ細やかな教育活動を行い、また、生徒が集団の中で互いに成長していく場を提供し続けることが重要です。少子化がさらに進行する中で、その実現に向けて志摩高校だけで完結させることにとらわれず、伊勢志摩地域全体を見渡して、高等学校の果たす役割と望ましい学校規模・配置について、早急に検討をしていく必要があると考えます。

3 水産高校 協議のまとめ

水産高校は県内唯一の水産学科を有する高校として、地元志摩市や水産関連施設等と連携・協働し、各学科・各コースが水産の専門的な知識や技術と地域産業の資源を活用し、県内水産関連産業の現状と課題を探りながら、改善提案を行う探究活動を展開するとともに、大型実習船での操業実習、海洋環境調査、国際航海を通じて、水産関連産業の担い手育成に取り組んできました。

更に、資格対策課外講座体制の充実によって、水産・海洋系の教職員の養成や高度な海技士資格を目指す専攻科への進学希望者の増加に努めてきました。

一方で、地域の少子化が進行する中、入学者の確保に向け、こうした活性化の取組を積極的に情報発信するとともに、志摩市の協力も得ながら市内中学校対象の出前講座等をとおして魅力発信に取り組んできましたが、市内からの入学者は減少しました。また、市外遠方の中学校に対しては個別に訪問し魅力発信を進めたことで、入学者数は微増しましたが、全体では入学者数の増加にはつながっていません。市内中学校からの水産高校への期待は、以前に比べ高まってきているものの、子どもたちの多様化する進路希望を実現するため、伊勢市内の高校への進学志向が強く、本校の水産学科だけでは対応ができていません。他方、市外遠方や県外からの入学者数は、交通不便の環境下においても増加傾向にあるものの、受入先（下宿）の開拓・確保が進まないことが課題となっており、積極的な入学生の募集が難しい状況にあります。

水産高校では、基礎学力の定着と専門性の深化に向け、現在、水産学科と共通教科の教科横断的な学びを推進しています。しかし、共通教科の教員はほとんどの教科で1名配置となっており、選択科目の充実や組織的な進学支援体制づくりなど難しい状況です。また、部活動についても団体スポーツ競技に挑戦する部員不足や水産高校ならではの種目を設置しようとする、現在ある部活動の継続が難しくなるなどの課題があります。

このことを踏まえ、今後更に少子化が進む中、子どもたちの多様な学びを実現し、将来の水産業と伊勢志摩地域を担う人材を育成していくためには、伊勢志摩地域全体を見据えて、適切な学校規模と配置を協議・検討していく必要があると考えます。

4 南伊勢高校南勢校舎 協議のまとめ

南伊勢高校南勢校舎では、南伊勢町や地域の方々の支援を得ながら、地域創生アドバンスコースでの地域と連携した地域課題解決型学習や防災教育、地域のイベント等における地域の小中学生や地域出身の大学生との協働による地域活性化に向けたSBPの活動、部活動や遠隔授業等での度会校舎との交流・連携強化等の取組を進めてきました。

また、放課後の進学就職対策課外授業や、大学進学給付型奨学金の補助制度などによる町の手厚い支援によって、自らの将来に対する目的意識を持ちながら大学へ進学する生徒や地元南伊勢町内の企業に就職する生徒が増加しました。

一方で、地域の少子化が進行する中で入学者数を確保するため、こうした南勢校舎の活性化取組を、町内中学校や地域の協力を得ながら、町内中心に積極的に情報発信してきましたが、南勢校舎の入学者増加にはつながらず、町外からの入学者も数名にとどまっています。南伊勢町では、南勢校舎へのイメージは以前より改善しつつあるものの、高校進学に関して伊勢市内への志向が強く、さらに、子どもたちが希望する学びが多様化している中、現在の南勢校舎における普通科の学びだけでは十分な対応が難しいことも影響しています。

南伊勢高校は現在、南勢・度会両校舎あわせて1学年2学級規模の学校としており、南勢校舎ではおよそ1学級規模の教職員数で運営しています。こうした中、多くの教科の教員が一人であるとともに、部活動についても9つの部活動の顧問を12人の常勤の教員（養護教諭、実習教員等を含む）で担っています。また、他校においては複数人で担当している校務分掌についても南勢校舎では1人の教員で担当し、教員1人あたりの業務量が増加しています。こうした状況は、生徒の希望に沿った選択科目の設置を難しくするとともに、多様な部活動の実施ができないなど生徒の学校活動に制約が生じています。

今後、少子化がさらに進む中、子どもたちの多様な学びを実現し、将来の伊勢志摩地域を担う人材を育てていくことについては、南伊勢高校1校だけでなく伊勢志摩地域全体において、これからの高校での学びや望ましい学校規模と配置も含めた今後のあり方の協議・検討を進めていく必要があると考えます。

5 南伊勢高校度会校舎 協議のまとめ

南伊勢高校度会校舎では、度会町・地域の方々の支援を得ながら、地域課題解決型学習、地域産業についての体験学習、地域機関との交流学习等を進めてきました。併せて、町の支援により放課後の進学対策課外授業や公務員対策講座なども実施してきました。こうした取組の結果として、一定数の生徒が度会町や伊勢地域に就職しています。過去3年でみると、H30年度には、全就職者42人中22人が地域企業に就職、同様に、R1年度には41人中12人が、R2年には21人中11人が地域企業に就職しています。度会町企業への就職もH30年度、R2年度にそれぞれ2人います。また進学においても、地元大学への進学を含め、進路希望を実現した生徒も多数います。また、度会町と連携する中で、町の様々な行事に度会校舎の生徒がボランティアとして参画するなど、度会校舎が度会町の活性化に欠かせない存在となる側面も生まれてきました。

併せて、度会校舎では、一人ひとりの生徒にきめ細かく関わりながら、中学校までの教育内容の学び直し等を必要に応じて行ってきました。その中で、学力が向上したり、資格を取得したりすることにより、自己肯定感が高まった生徒が多くいます。また、度会校舎への入学者の中には、「本校が第1志望ではなかった」という生徒が少なくありません。そのような生徒が、度会校舎で安心して積極的に学校生活を送る中で、学校に愛着を持つようになり、満足して卒業していくというケースが多数あります。これらは、度会校舎の重要な存在意義だと考えます。

こういった取組の成果を、学校・度会町の双方で様々な形で発信してきました。そのことが度会校舎のイメージアップにつながったという評価もあります。

一方で、これまでの取組を検証する中では、就職に直結する取組、中学生へのPRや、地元の度会中学生が度会校舎に興味関心を持ってもらうような連携といった面における課題も見えてきました。そうした個別的な課題が、少子化の進行と相まって、十分な入学者の増加につながらなかったと考えられます。

南伊勢高校は現在、度会・南勢両校舎あわせて1学年2学級規模の学校となっており、度会校舎はおよそ1学級規模の教職員数で運営しています。そのため、生徒の希望に沿った選択科目の設置や多様な部活動の実施等が困難になってきています。また、教職員数の減少により1人あたりの業務量が増加しています。そのような状況の中で、度会校舎が大切にしてきた、一人ひとりの生徒に対するきめ細かな関わりを維持する努力を続けています。

今後、少子化がさらに進む中で、「度会町を含む伊勢志摩地域の子どもたちの学びや他者と共生する力の育成をいかにして保障していくか」を、度会校舎がこれまで伊勢志摩地域で果たしてきた役割をふまえつつ、考えていかねばなりません。また、伊勢志摩地域の子どもたちの多様な学びの実現や将来の地域を担う人材の育成ということについては、度会校舎1校での協議だけでなく、伊勢志摩地域全体で、これからの高校の学びや、望ましい学校規模と配置も含めた今後のあり方について協議・検討を進めていく必要があると考えます。